

5. 新梢管理

主枝・亜主枝の背面や大枝の切り口、さらに長果枝・中果枝の基部10cm内の直上芽は、強勢な徒長枝となって無駄なエネルギーを使います。さらに樹形を乱し良品生産を阻害することとなるため、摘果作業に合わせ早めに掻き取り処分することが大事です。

結実量が少ない場合は、特に新梢管理に留意しましょう。

太い徒長枝は、5月中旬から6月下旬にかけて、30cm以上の新梢を20cm程度残し切除します。これにより、受光状態、樹形確立、病虫害発生などを防止し、翌年の結果枝として利用できます。

急激な新梢管理は、樹勢のバランスを崩し、さらには衰弱につながるので、注意しましょう。